

# 改めて「挨拶」に思う

校長 幸柳 康弘

『おはようございます!』元気に挨拶する子どもたちの声が聞こえてきます。毎年あいさつ運動を行っていますが、今年はグレードアップしたあいさつ運動が展開されています。6月7日(水)9日(金)児童と一緒に本校を卒業した丸山台中学校の生徒が沢山(2日間の延べ人数61名)参加しました。すずかけ小の児童も職員も久しぶりに会う生徒に嬉しさを感じていたのでしょう。いつもよりも少し大きな挨拶の声とともに笑顔の輪が広がっていました。

「挨拶」という言葉は、もともと「おはようございます(お早うからご苦労様でございます)」「こんにちは(今日のご機嫌いかがですか)」など人の体調や心境を気遣う言葉だったそうです。たった一言の短い言葉に込められた気遣い。何とも素敵な言葉です。

「気遣う」とは「相手を思う」ことに通じます。「相手を思う」ことの大前提は「相手の存在を認識する」ことにほかなりません。つまり挨拶とは、きちんと相手の存在を認識することが根底にあると言えます。翻せば挨拶をしないとは「相手の存在を認めないこと」と捉えられなくもありません。マザーテレサの言葉「愛の反対は憎しみではなく無関心である」が重く響きます。相手を一人の大切な人間としてしっかりと認めること。挨拶が人権の基本であるといわれる所以です。その意味を知り、たった一言の短い言葉に思いをのせて挨拶すると、きっと表情豊かに、声色豊かに言葉を介さずにはいられないのではないのでしょうか。

小中学生による「あいさつの輪」が丸山台中学校ブロック、そして地域全体へ、挨拶と共に笑顔の輪も広がることを期待しています。

昨年度丸山台中学校ブロック(丸山台中、丸山台小、下野庭小、野庭すずかけ小)の「子ども会議」で話し合わせ、作成した4校合作のあいさつポスター。

昨年度の取組が、今年度の取組に生かされています。今年度の「子ども会議」も楽しみです。子どもたちの主体的な取り組みに期待しています。



\*丸山台中学校ブロックあいさつ運動は夏休み明けの9月と冬休み前後12月~1月にも行う予定です。